

ASSOCIATION PROFILE

組合概要



Pioneer of Pinnet industrial method

パイオニアとしての誇りと責任

理論に裏付けられた確かな技術

全国どこでも同じ品質の外壁リフォームを実現する

ゆるぎない自信があります。

大切な建築物をいつまでも安全に美しく保つために

私たちはピンネット工法のパイオニア

ジャビナです。



ごあいさつ

バブル経済崩壊後の建築市場は、それまでのスクラップ&ビルドの流れから、一転して既存の建造物をいかに長持ちさせるかに移行してきています。私共はこのニーズを先取りし昭和62年よりタケモルピンネット工法の普及に努めて来たピンネット工法のパイオニアです。平成7年に旧建設省によって外壁複合改修構工法として建設技術評価制度に取り上げられ、タケモルピンネット工法はこの基準を満たしているとして評価を受けました。そして当該工法に関連する特許が成立したのを機に、任意組織のタケモル工業会から現在の全日本外壁ピンネット工事業協同組合に改組し、今日に至っています。今後も多くの実績を活かし、組合員一同技術の研鑽に励む所存です。ご指導ご鞭撻の程を切にお願い申し上げます。

全日本外壁ピンネット工事業協同組合
理事長 山本弘之

タケモルピンネット工法とは

タケモルピンネット工法の開発の経緯

モルタルやタイルなどの仕上げ層は、温湿度による温冷乾湿ムーブメントや線膨張係数の異なるデファレンシャルムーブメントなど、複雑な伸縮を日々繰返しています。外壁構成材の脆弱部に蓄積した疲労はストレスとして開放されて、浮きやひび割れとなって現れてきます。

在来工法における浮きやひび割れの改修は、剥離した界面やひび割れに対し、樹脂やアンカーピンで接着させる考えで行われます。しかし、仕上げ層の動きを抑制しない限り、条件の異なる現場では、目視できない浮き界面に手探りで樹脂を注入し一時的には接着しても、脆弱部は再び浮きが生じ、改修が繰返されています。

外壁仕上げ層の剥落防止技術は、安全性の観点から最も重要な技術であり、確実性、耐久性、科学的理論に裏打ちされた外壁改修構工法を目指す目的で、平成7年、建設技術評価制度公募課題（建設省）として取り上げられ、平成9年「タケモルピンネット工法」は評価を受けました。

タケモルピンネット工法は、外壁の仕上げ層が動く考え方を前提として、アンカーピンによる既存モルタル層の剥落防止と、外装に伴う透湿抵抗増加の緩和策および、ひび割れたモルタル層をネット層で補強し、集成板的に板状性を回復する工法理論の基に成り立っている技術であります。

技術の裏付けは、評価書、建設省建築研究所の受託研究報告書、国土交通省運営の新技术情報提供システム「NETIS」の登録、独立行政法人都市再生機構（UR）の判定基準に基づく財団法人 建材試験センターでの各種試験、揮発性有機化合物測定試験、不燃材料の大臣認定書などがあります。

工事は、品質管理された各種使用資材と施工要領により、全国の組合員が責任を持って工事を行っています。また、定期的な新工法の伝達や技術情報の交換を行う技術講習会などが実施され、技術の習得が行われているなど、技術に裏付けられた信頼ある新規工法の開発が行われています。

ジャピナが誇る8つの工法紹介



タケモルピンネット工法

外装モルタルの浮きやひび割れの主たる原因である、外壁の伸縮を考慮したモルタル剥落防止工法



タイルガードネット工法

タイルを剥がさずにタイルガードとタケモルネット層で剥落防止を図り、新規仕上げに必要な下地層を形成する工法



タケモルネット貼り工法

コンクリート打ち放し面やALC板等を対象に、既存塗膜の処理と躯体保護、新規仕上げに必要な下地層を形成する工法



タケモル・ラスモルタル補強工法

防火目的であるラスモルタル壁の剥落安全性を強化するラスモルタル壁の剥落防止工法



タイルガード工法

タイルの意匠を残したままタイルの剥落を防止する工法



タケモル目地補強工法

ガードピン、ステンレス鋼線及びSBR系ポリマーセメントモルタルの複合でタイルの剥落を防止する工法



VSF工法

寒冷地での30年以上に及ぶ経験から生まれた快適な住居環境を目指す湿式通気外断熱工法



タケモル外断熱工法

結露対策を兼ねた外壁剥落防止工法

組合概要

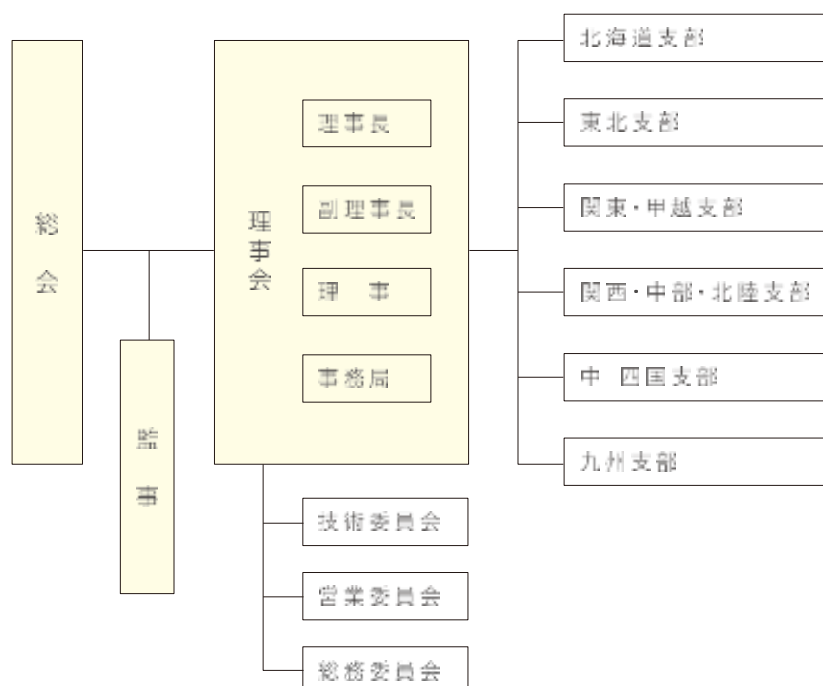
【名 称】 全日本外壁ピンネット工事業協同組合 [JAPINA(ジャピナ)]

【事務局】 〒114-0031 東京都北区十条仲原2-12-6
TEL :03-3906-1503 FAX :03-3906-5031
japina@sage.ocn.ne.jp
http://www.japina.com

【設 立】 平成9年7月10日

組合構成

全日本外壁ピンネット工事業協同組合は、タケモルピンネット工法の開発組織並びに責任施工体であり、常にオリジナルな工法の開発に努めています。
北海道、東北、関東・甲越、関西・中部・北陸、中・四国、九州の6支部で構成され、各支部長のもとに活動を行っています。総務、営業、技術委員会があり、各委員長のもとに活動を行っています。総会、理事会、三役会等で運営しています。



沿革

1987年 〔昭和62年〕	既存鉄筋コンクリート造外壁モルタル(小型タイルを含む)の剥落防止工法として「タケモル®」「ガードピン®」「ガラスネット」等を併用した新しい理論での外壁剥落防止工法に着目し、JU工法工業会を結成、「JUピンネット工法」(仮称)の開発を具体的に目指す。
1989年 〔平成元年〕	北九州市において発生したタイル剥落死亡事故が引き金となり、在来工法に対する信憑性が同われ始め、JUピンネット工法による剥落防止工法に関心が寄せられる。
1991年 〔平成3年〕	<ul style="list-style-type: none">●JU工法工業会をタケモル工業会に改称し、JUピンネット工法を「タケモルピンネット工法」に改名する。●タケモルピンネット工法の性能評価を社団法人 建築研究振興協会に申請。
1993年 〔平成5年〕	社団法人 建築研究振興協会に申請していたタケモルピンネット工法の性能評価について建設省 建築研究所(現独立行政法人建築研究所)より受託研究報告書「コンクリート建造物の外壁補修・改修のための改修工法(タケモルピンネット)に関する評価」を受理。
1996年 〔平成8年〕	建設省(現 国土交通省)は平成7年度建設技術評価制度公募課題として外壁複合改修構工法の開発と題して取り上げ、多くの関連企業がこれに応募し、タケモル工業会(現 全日本外壁ピンネット工事業協同組合)もタケモルピンネット工法の理論のもとに応募する。タケモルピンネット工法は、開発目標に照らして評価した結果、開発目標を達成していると認められ、評価書を受理。
1997年 〔平成9年〕	タケモルピンネット工法に関連する特許成立に伴い、タケモル工業会を全日本外壁ピンネット工事業協同組合(ジャピナ)に改組し、タケモルピンネット工法はジャピナの専有工法となる。
2002年 〔平成14年〕	国土交通省の新技术情報提供システム(NETIS)にタケモルピンネット工法が登録される。
2003年 〔平成15年〕	<ul style="list-style-type: none">●財団法人 日本住宅・木材技術センターにおいてタケモル・ラスモルタル補修工法のモルタル塗軸組耐力壁の面内せん断試験を実施。
2007年 〔平成19年〕	湿式空気外断熱工法「VSF(ベンチレーション・スリットフォーム)工法」が開発された。
2009年 〔平成21年〕	タケモルネット貼り層が建築基準法第68条の26第1項の規定に基づき同法第2条第九号及び同法施工令第108条の2第一号から第三号まで(不燃材料)の規定に適合。
2010年 〔平成22年〕	<ul style="list-style-type: none">●独立行政法人 建築研究所の「建築物の長期使用に対応した材料・部材の品質確保ならびに維持保全手法の開発に関する検討委員会」に参画。●タケモルTM-100及びタケモルネットの改良に伴い独立行政法人 都市再生機構が定めている「外壁複合補修工法の判定基準5項目」に準拠し財団法人 建材試験センターで検証した結果、全ての項目に適合。
2011年 〔平成23年〕	<ul style="list-style-type: none">●改良型タケモルネット貼り層が建築基準法第68条の26第1項の規定に基づき同法第2条第九号及び同法施工令第108条の2第一号から第三号まで(不燃材料)の規定に適合。



全日本外壁ピンネット工事業協同組合

事務局

〒114-0031 東京都北区十条仲原2-12-6

☎ 03-3906-1503 📠 03-3906-5031

✉ japina@sage.ocn.ne.jp

🖥 <http://www.japina.com>

組合員
